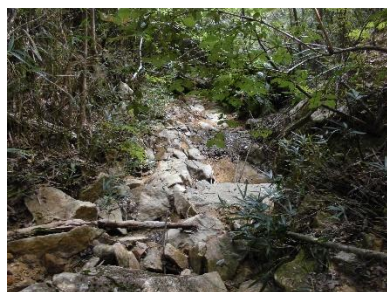


実技報告書 B班

山行目的	日帰り登山（山スクール トレッキング1 実技⑦）
山域・山名	大岩岳
月日・天候	2025年9月20日（土） 天候：曇り 夕刻より雨予報 気温：27度 風速：5メートル
メンバー	生徒5名 講師1名
行程	<p>9時JR道場駅集合 大北商店2階で座学 教材「地形図とコンパスを使ったナビケーション技術学習テキスト」 地図記号から得られる情報、地図記号、地形の特徴、コンパスの活用法等について講義 コンパスを使用して地理院地図上に設定されたコースの①～⑱に角度を記入</p> <p>10時40分 実技開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩幅の測定 50メートル×2回を歩き各自の歩幅を知る ⇒どのくらいで目的地に着くか目安となる 求め方：歩幅＝5000÷平均歩数（単位：cm） ・読図による登山開始 地図上のポイントを見つけ地図と実際の景色を確認 ポイントごとにコンパスで角度を合わせ進行方向を確認しながら登山を行う ①→⑧の手間まで歩行 <p>12時15分 風吹岩で昼食</p> <p>12時30分 登山再開</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑧→⑪まで歩行 <p>13時10分 通行不可によりルート変更という設定でポイント⑳～㉒を追加 ⑪→㉒へ歩行 ㉒からは⑯へ、⑯→①へ</p> <p>15時35分 JR道場駅到着終了</p>
座学での学び	<ul style="list-style-type: none"> ・道迷いは地図を持たないことや現在地が分からない事が原因となっていることが多い。読図や歩測が出来ればスマホの電源が切れたり電波が届かないところでも道迷いの可能性を減らせる ・登山前にルートを確認し、角度を測ってポイントごとに記載しておく ・地図の上は「北」。「西」に進む場合は「270度」、「東」に進む場合は「90度」これを分かっているれば角度の間違いに気付ける
実技での学び	<p>②地図上では送電線の下だが送電線が木に隠れて見つけにくかった ⇒周りの景色を意識すること</p> <p>③ポイントを通り過ぎる ⇒ポイントは分かりやすいところに設定する</p> <p>④水が流れているが地図上では記載されていない</p>

	<p>⑥1.5メートル以上の川幅 ⇒④と⑥を勘違いする可能性がある。地図では1.5メートル以下の流れは記載されない事を知っておく</p> <p>⑦三叉路だが右への道が分かりにくくなっている ⇒地図上では道があっても人が歩かなければ道が無くなる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨裂（土が流れて岩肌が露出）の確認 ・人工物（高速道路）が迷った時の目印になることを確認 <p>⑨左へ曲がる</p> <p>⑩三叉路だが⑦以上に道が無くなっている</p> <p>⑪送電線、三角点を確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「火の用心」の看板は関電のルート 緊急時は通報プレートの番号を知らせる <p>⑫川の三叉路は分かりにくい</p> <p>⑬鉄塔</p> <p>⇒地図上の鉄塔は送電線が曲がっているところを指すため目印にはしにくい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物、ダムなど地図と実際の景色を確認 <p>⑭右へ曲がる ⇒⑨と同様に90度近い急カーブは分かりやすい</p>
感想	<p>普段の登山ではいかに何も考えずに分かりやすいと思う道をただ歩いているだけだということを痛感しました。</p> <p>現在地の把握が難しく、読図も手強いと感じましたが、地図から地形を読み、地図を見ながら歩いてその一致（地図と実際の違いも）に気付くという楽しみもあるのだと思いました。</p> <p>道のりは遠そうですが、スマホ頼りにならずに読図が出来るようになれば、道迷いの心配が減り、色々な山に挑戦できそうな気がしました。</p> <p>記録をすることで思い出し、復習が出来て良かったです。</p>

④1.5メートル以下の流れ



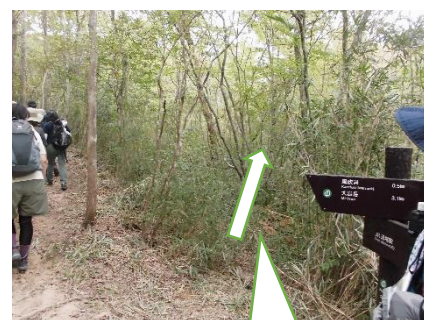
雨裂

⑥地図記載 1.5メートル以上の流れ



人工物の確認

⑦三叉路？



地図ではこちらに道がある



高速道路

⑨左へ曲がる



⑩三叉路？



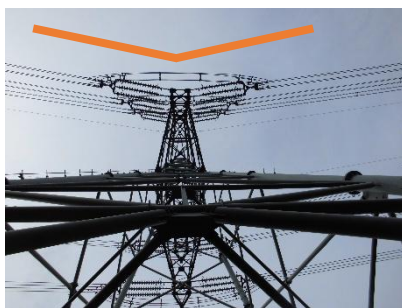
関電プレートと通報プレート



⑪川の三叉路？



⑫鉄塔



地図と実際の景色を確認



建物

ダム

⑬右へ曲がる

